



1

1 装束には九曜紋や蝶紋、車紋などがあしらわれる。太鼓胸部に巻かれたシラベ隠しの色は「ふし染」 2 獅子頭の後部には流派である「金津」と、流祖の地である「次橋」の文字が記されている 3 庭元の平野幸男さん宅にある初代・菊池太蔵の供養碑。毎年7月に太蔵を顕彰する祭りが開かれ、梁川獅子躍の分派が一堂に会する 4 平成15年に地元梁川でこども獅子躍を結成したほか、おととしからは江刺中央体育館でも教室を開催。さまざまな場所から生徒が集まり、熱心に練習に励んでいる



2



3



4

# 奥州遺産

—ときを越え

受け継がれるもの—

第107回

## 金津流梁川獅子躍

(県指定無形民俗文化財)

### 江刺梁川

神の使い「シシ」となり、太鼓を打ち鳴らしながら勇壮に舞う——。江刺の金津流梁川獅子躍は、1828年に江刺郡旧石関村から伝承され、地域の神事芸能として踊り継がれてきた。日本が高度成長期を迎えるころ、梁川獅子躍は活躍の場を広げていく。オリンピック東京大会民俗芸能展示へ出演したほか、大阪万博などにも出演。さらには海外でも数々の公演を行い、獅子躍の魅力を国内外へ知らしめた。現在は10人で活動しており、遠く東京から参加するメンバーもいる。8月16日には江刺夏まつりに出演し、圧巻の百鹿大群舞を披露する予定だ。

梁川獅子躍は、近隣の組への伝承活動や後継者の育成にも力を注ぐ。及川俊一代表は「獅子躍が好きなら、地区や年齢に関係なく教えたい」と情熱を傾ける。200年近い歴史を重ねてきた梁川獅子躍。大樹となったその枝には、いくつもの若葉が芽吹いている。

広告

●広告の問い合わせは、(株)東広社 (☎ 0197-64-1523)